

平成29年8月8日

政務活動研修報告書

下記のとおり、研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6(7)の規定により報告します。

記

1. 研修日時	平成29年8月3日～8月4日
2. 研修先	全国市町村国際文化研修所 (滋賀県大津市)
3. 研修参加者	榎橋美恵子
4. 主催者	公益財団法人 全国市町村研修財団
5. 講師等の氏名 及び略歴	(講師氏名及び演題等を記載) 1. 2025年に向けた医療介護総合確保政策 廣徳義塾大学教授 田中 恭氏 2. 子ども貧困対策 法政大学現代福祉学教授 湯浅 誠氏 3. 認知症対策 医療法人社団のしん会理事長 新田 國夫氏 4. 災害と福祉の連携 iesz-ストワヤト 常務理事 津野 愛氏
6. 研修目的	宍粟市に通じるものがあふれ取り入れ 市政発展のために なりたいと思いたい。
研修内容	<p>① 超高齢化 → 人類史上初めてのことで、 今より長寿は十分運命に任せて。 病気にすると医療がしつかりしている。栄養もとれる 福祉にもよって長生きできる形になった。 そこで地域で住民の力を発揮し自分達のまちづくりをしていく 時代に入らなければならない。在宅医療が大事におこなう用業医と 連携する。 共生社会 高齢者と子どもが一緒に何かをする明るいまちに!</p> <p>② 今！子どもの貧困が問題になっている。 7人に1人が子ども貧困という。どう思っているか。また子どもの 権利も、お金の面、いろいろな思っていると思う。 子ども貧困は食うも食わせないわけではない。 寂しく暮らしていると思いが、何故！子ども貧困というのか！</p>

<p>研修内容</p>	<p>お金に関する問題ではない。気持ちの部分が大変 1) お金知識・知識・経験→生活して(為)の根本的知識 2) 体験が大変 3) 時間 → (親の時間)の時間 言葉の時間 4) トラブル対応。 5) 対応がある。いろいろ補う。→ 地域で担っている。学習支援、子ども食堂 貧困の連鎖にさらされる。地域で見守られているように移るが大変 ③ 脳血管性の病気で認知症になることがある。 生活習慣を見直して脳血管が通る。 認知症対策 → 予防の得に心がける。 認知症を治すには難しい。地域の大変。背後からサポート。 (常日頃からの親が見守ることが大切) ④ 災害から避難所に行くとき。何が重要か。 何をいかに伝えるかを教わった。知っている知らないで 大差がある。衛生的にいかに生活が出来るか 生活が出来るように心がける。 災害関連死が多発する。逃げ遅れる。避難所での生活。 女性の立場で何が重要かを伝える。親と関わり改善していく。 食生活と寝る場所は別々。避難所でも居心地がよくなる。 (心(ほ)が出来るように心がける)</p>
<p>考察</p>	<p>(研修を通して尖栗市における可能性や問題点などを考察する) 子どもの貧困。子ども食堂を通じて。食事と食卓というところが 学習支援。そして家庭的な雰囲気を作ることが出来る。 今、子どもの貧困に悩んでいる子どもが、避難所において。子どもに対し かけがえのない時間と空間を確保する。貧困の連鎖を断つ。大切にする。避難所 での生活。今の時。子ども食堂を市に立ち上げることが出来る。</p>

【添付書類】研修会受講状況写真 (可能であれば添付)



慶應義塾大学
名誉教授

田中 滋

大学院経営管理研究科
ヘルスケアマネジメント・イノベーション 専攻講座
〒223-8526 横浜市港北区 1-1-1 協生館
Tel: 045-564-3301
Fax: 045-564-3621
www.keio.ac.jp/~kbs/tyanaka.com